

【聽譯】 月見桜



幾千の夜 幾万の星
泣いて流れ抱きしめて
愛しい君を 切に思う
涙枯らせる程に

數千夜晚 數萬繁星
哭着喊着抱緊着
深切想念着 深愛的你
甚至流乾眼淚的程度

揺り籠のように揺れる
時代は儚さの小舟
紡ぎ合える指先さえも
風の悪戯に解けてく

像搖籃一樣搖擺中
時代就像纖纖小船
就連十指相合的指尖也
因風的玩笑而解開

虚ろな心一つ
天の川を旅しながら
何時か辿り着けると信じ
願う切なさの道標
遙かな記憶の果て この
灯火
約束の月見桜 感じて

一顆空虛的心
漫遊於銀河繁星中
堅信終有一日能到達
所思所念的那塊路標處
探尋遙遠記憶的終點 這
片燈火
約定的月下櫻 感覺到

幾千の恋 幾万の傷
強く深く限りなく
描く未来 永久人

現在を忘れる程に

數千戀愛 數萬傷痕
強烈的深刻的無邊無垠的
描繪中的未來 永恆不變
的人
甚至忘了現在的程度

幾千の夜 幾万の星
泣いて流れ抱きしめて
愛しい君を 切に思う
涙枯らせる程に

數千夜晚 數萬繁星
哭着喊着抱緊着
深切想念着 深愛的你
甚至流乾眼淚的程度

揺り籠はまだ揺れる
時代は争いを求む
刹那 一欠けの温もりも

奪い奪われる稲光

搖籃仍在搖擺中
時代在追尋紛爭
短暫剎那間 那一片溫暖
也
於你爭我搶中化爲閃光一
現

静かな心一つ
私は足枷を拭い
疲れ切った体のままで
君の居場所を探している
仄かな光浴びて ただ煌
めく
無碍に咲く月見桜 見上
げて

一顆沉靜的心
我擦拭着腳鐐
憑着已完全累垮的身體
尋找你所在的地方
沐浴在微微亮光中 只是
星光閃爍
與世無爭中盛開的月下櫻
擡頭仰望

幾千の夢 幾万の罪
人は人を求め行く
一雫の 希望にさえ
言葉失う程に

數千夢想 數萬罪行
人與人相互探尋
就連一小滴希望也
甚至無言以對的程度

幾千の夜 幾万の星
泣いて流れ抱きしめて
愛しい君を 切に思う
涙枯らせる程に

數千夜晚 數萬繁星
哭着喊着抱緊着
深切想念着 深愛的你
甚至流乾眼淚的程度

幾千の夢 幾万の罪
人は人を求め行く
一雫の 希望にさえ
言葉失う程に

數千夢想 數萬罪行
人與人相互探尋
就連一小滴希望也
甚至無言以對的程度

幾千の夜 幾万の星
泣いて流れ抱きしめて
愛しい君を 切に思う
涙枯らせる程に

數千夜晚 數萬繁星
哭着喊着抱緊着
深切想念着 深愛的你
甚至流乾眼淚的程度

這首其實原本計劃聖誕夜前就開始着手翻譯了，不過事況突變，到今天才發出來。又是一首大量使用和語用詞的，非常古風的歌。照例，左側註音，右側釋義。

いく せん よる いく まん ほし
幾千の夜 幾万の星
な なが だ
泣いて流れ抱きしめて
いと きみ せつ おも
愛しい君を 切に思う

なみだ か ほど
涙 枯らせる程に

ゆ かご ゆ
揺り籠のように揺れる
じだい はかな こぶね
時代は 儚さの小舟

つむ あ ゆびさき
紡ぎ合える指先さえも

かぜ いたずら と
風の悪戯に解けてく

はかな
儚さ：脆弱的，飄渺不定
的，虛無的。

つむ あ
紡ぎ合える：像紡織物那
樣嚴絲合縫，這裏指代十
指交叉的兩手指尖。

いたずら
悪戯：惡作劇、玩笑。這
裏更有陰差陽錯、機緣巧
合的感覺。

うつ こころ ひと
虚ろな心一つ
てん がわ たび
天の川を旅しながら
いつ たど つ しん
何時か辿り着けると信
じ

ねが せつ みちしるべ
願う切なさの道標

はる きおく は
遙かな記憶の果てこ
ともしび
の灯火

やくそく つきみ ざくら かん
約束の月見桜 感じて

ねが せつ
願う：祈願中的。切な
さ：深切想念的。

は
果て：終點。

いく せん こい いく まん きず
幾千の恋 幾万の傷

つよ ふか かぎ
強く深く限りなく

えが みらい とこしえ びと
描く未来 永久人

いま わす ほど
現在を忘れる程に

とこしえ
永久：永久這個漢字可以音讀「えいきゅう」或者訓讀「とこしえ」、「とわ」，感覺意思都差不多。

いま いま
現在：這裏今標上了当て字「現在」，「現在」這個詞本身只有音讀「げんざい」

いく せん よる いく まん ほし
幾千の夜 幾万の星
な なが だ
泣いて流れ抱きしめて
いと きみ せつ おも
愛しい君を 切に思う
なみだ か ほど
涙枯らせる程に

ゆ かご ゆ
揺り籠はまだ揺れる
じだい あらそ もと
時代は争いを求む

あらそ もと
争い：紛争。求む：渴求、尋求。

せつな ひと か めく
刹那 一欠けの温もり
も

ひと か
一欠け：破碎的一小片。

うば うば いなびかり
奪い奪われる稲光

うば うば うば
奪い奪われる：搶奪（奪

う) 這個動詞的連用形緊
接受動態，表達相互搶
奪。^{いなびかり} 稲光：閃電，閃光。

しず ^{こころ} 心 ^{ひと} 一つ

わたし ^{あし} かし ^{ぬぐ} 我は足枷を拭い

つか ^き 切 ^{からだ} った体 ^の ままで

きみ ^{いばしょ} 居場所 ^{さが} を探 ^{して} いて
る

ほの ^{ひかり} 光 ^あ 浴びて ^{ただ}
煌 ^{きら} めく

むげ ^さ 無碍に咲 ^{つきみ} く月見 ^{ざくら} 桜 ^み 見 ^{むげ}
あ ^あ 上げて

ほの ^{きら} 灰か：微弱的亮光。煌め
く：閃爍。

無碍：不受週遭影響。

いく ^{せん} 幾千の夢 ^{いく} 幾万の罪 ^{つみ}

ひと ^{ひと} 人は人 ^と を求 ^ゆ め行 ^く

と ^ゆ 求め行く：動詞連用形＋
行く表趨勢，人有探求人的趨勢。

いち ^{しずく} 一雫の ^{きぼう} 希望にさえ

ことば ^{うしな} 言葉失 ^{ほど} う程に

いく せん よる いく まん ほし
幾千の夜 幾万の星
な なが だ
泣いて流れ抱きしめて
いと きみ せつ おも
愛しい君を 切に思う
なみだ か ほど
涙枯らせる程に

いく せん ゆめ いく まん つみ
幾千の夢 幾万の罪
ひと ひと と ゆ
人は人を求め行く
いち しずく きぼう
一雫の 希望にさえ
ことば うしな ほど
言葉失う程に

いく せん よる いく まん ほし
幾千の夜 幾万の星
な なが だ
泣いて流れ抱きしめて
いと きみ せつ おも
愛しい君を 切に思う
なみだ か ほど
涙枯らせる程に